

各関係機関の長 殿
各病害虫防除員

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和6年度病害虫防除情報第9号

県内の冬春ピーマンにおけるヒラズハナアザミウマについて、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

冬春ピーマンにおけるヒラズハナアザミウマの発生が増加しています。今後の発生に注意し、適切な防除を行いましょう。

- 1 作物名 冬春ピーマン
- 2 病害虫名 ヒラズハナアザミウマ
- 3 発生状況（経過）：平年より多

11月中旬に実施した巡回調査において、冬春ピーマンでのヒラズハナアザミウマの発生面積率は平年並、発生程度は平年より多であった（図1～2）。

発生面積率：60.0%（平年59.4%、前年81.8%） 平年並
10花当たり虫数：40.3頭（平年14.2頭、前年29.4頭） 平年より多

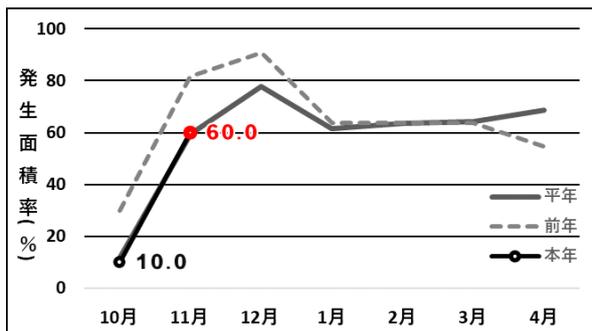


図1 発生面積率の推移

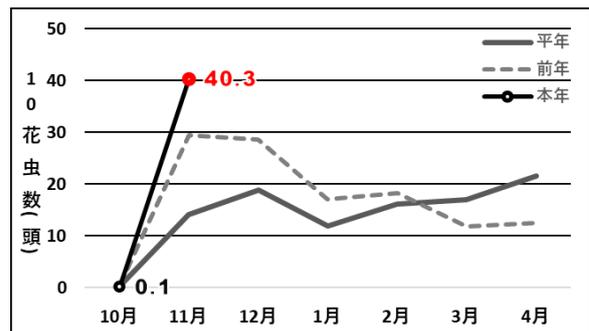


図2 10花当たり虫数の推移

4 防除上の注意

- (1) 施設内およびほ場周辺の雑草は生息・増殖場所となるので、除草を徹底する。
- (2) 本虫は、ピーマン黄化えそ病の原因となるトマト黄化えそウイルス（TSWV）を媒介するため、野外からの侵入および施設内での増殖を防ぐ。
- (3) 青色粘着トラップを生長点付近に300～500枚/10a設置し、誘殺による密度低下を図る。ただし、株が繁茂する前に設置しないと効果が十分に得られない場合があるので、早めに設置する。天敵カスミカメ類との併用はしない。
- (4) 主に花内部に生息するため、薬剤の散布は、薬液が花の内部にしっかり付着するように行う。花粉が薬液をはじくことから、薬剤の付着性を高めるために乳剤以外では、必ず展着剤や気門封鎖剤を加用する。
- (5) ピーマンの花数が減少する時期が防除適期となるので、この時期を逃さず、防除の徹底を図る。
- (6) 高密度になると防除が困難となるため、低密度のうちに防除を行う。また、天敵の導入施設では天敵に対して影響の少ない薬剤・展着剤を選択する。
- (7) 有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避する観点から、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を心がける。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 田爪

TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

HP : https://hinatamafin.pref.miyazaki.lg.jp/soshiki/noshi_byogai/index.html

